

部 歌

古 林 先生 作 詞

一 まや六甲に抱かれて  
ここ六甲台の水清し  
ちぬの浦和をみおろして  
シブキをあげる健男児

二 フリー プレスト バタフライ

バック リレー ボロまでも

凌泳健児の意気高し

いざや競わん腕を撫し

三 ああなつかしの水泳部  
六甲台のプール辺に  
月見の宴で泳ぎやめ  
くる夏まっていきりたつ

# 水 泳 部 歌

作詞 古 林 喜 樂

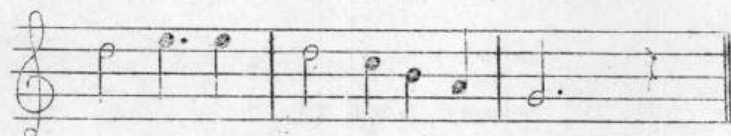
作曲 山 田 貴 彦



1 ま や 六 一 甲 一 に い だ か わ て こ と む こ が お か の  
 2 フ リ 一 プ レ ス ト バ タ フ ラ イ バ ッ ク ー リ レ ー  
 3 あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ う だ い の ー



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て ー し ぶ き を あ ー  
 ボ ロ ま べ も り よ う え い け ん じ の い き た か し い ざ や き そ  
 ブ ー ル べ た つ き み の え ん で ー お よ き や め く る な つ ま ー



げ る け ん だ ー ん じ  
 わ ん ろ で を ー ぶ し  
 っ て い き い り た つ



# 古林先生の御退官に際して

岡 本 忠 男

昭和四十一年三月三十一日をもって先生が神戸大学教授の職を退かれましたが、先づ益々御元気で御退官されたことを心からお喜び申し上げます。

先生が御退官されると聞いた時はもうそんな御年令になられたのかと、いささかびつくりした次才です。というのは我々水泳部のO・Bはいつも先生の御健壯な姿を拝見しながら楽しく語り合いをさせてもらっているので、壮年古林先生といった感をもっていただけです。今後神戸大学名誉教授として、又水泳部会長として先生の御指導をいただける事は誠に幸甚に存じている次才です。

私は学部十二回の卒業生ですが、入学当時は先生は助教で経営労務論を専攻されて、学生に新しい労務管理を御指導されていきました。水泳部は副部長でしたが、水泳のシーズンになるとブルーに顔を出されて一緒に泳ぎながら部員を激励されていきました。当時は静かなものやさしい先生でした。美声の方はほとんどお聞きする機会はありませんでした。二年生になった時に部長になられ三商大戦で部長の競泳に出場されるものゝ見事に優勝された事が今なお頭の中に残っています。

卒業して六ヶ月後神戸海軍監督官附として神戸に着任し、一年後比島転属の際に結婚したのですが、結婚式に御来席の栄をたまたわった時に御来賓の方々に私を水泳部の岡本として披露下さいました。先生と水泳部そして部員との深いきずがあるとひしひしと感じました。O・Bの方々にも同感の方が多いと思います。

戦後再び水泳部をつうじて先生の御人徳に接する機会がえられるようになったのですが、学長になられた先生は縦横無尽に学長の激務を専念されていましたが、その多忙の中でも時間をさかれて奔放快樂に、文字通りきらくに競泳会員に接せられた事は大変嬉しく有難く思っています。年令を忘れて昔も今も、戦前も戦後も日本水泳界の発展に骨髄され、又水泳部を愛し続けられている事を我々は深く感銘せねばなりません。そして先生が競泳会会長としておられる幸福を忘れてはならないと思います。

先生どうか益々御健康に留意され国民のため又新しい時代をせなう学生のために御指導御鞭撻下されると同時に競泳会も併せて宜敷くお願い申し上げます。

# 古林喜楽先生

## 御退記念謝恩会報告

永年に亘り、神戸大学水泳部長として、また競泳会会長として現在に至るまで、御指導、御尽力頂いている古林喜楽先生も四十一年三月を以て神戸大学を定年、御退官になりました。

競泳会としましては、會員の皆様のお賛同を頂きまして昨夏七月十日、神戸の須磨荘にて御退官記念謝恩会を催し、記念品をお贈りしてお祝い申し上げた次第であります。御出席の方々は田口先生その他各地より卒業生二十八名に上り理役陣も全員参加し盛会でした。

尙学部第九回卒業生で、今治にてタオル製造会社を営んでおられる中村市治氏より「古林先生御退官記念」「競泳会」のネーム入りバスタオルを寄贈して頂きましたので、出席者、記念品代寄付の方々に贈りさせて頂きました。

未だ多少部に残っておりますので御希望の方には、一枚五百円でお送りします。

尙古林先生は、関西学院大学へ教授として赴任されました。神戸大学には経営学部名誉教授として在籍されます。

2000

### 謝恩会出席者は次の通り

田口 寛治	草野 嘉一	桑川 義男	中村 市治
柏木 慶三	岡本 忠男	小西 信次	石井 義章
田淵 五郎	佐藤 一天	山口 仁郎	松田 司郎
岡田 昌三	柴川 泰介	宇賀 史郎	竹元 忠彬
丸山 卓也	平岡 昭朗	武政 英幸	鈴木 正彌
山本忠比古	梶 莊祐	滝沢 章三	前田 和秀
樋口 周平	真喜志好一	山口 幸郎	中畑 勝明
手嶋 忠之	小越 信昭	現役は宮部高博主将以下二十一名	

### 記念品代寄付金清算書

収入	寄付金総額 一三九〇	六九、五〇〇円
支出	記念品(ソニーテレビ)	四二、〇〇〇円
	タオル送料	三、七三二円
		二二、七六八円

### 差引残額

この残額二二、七六八円は、古林先生に銀行チェックとしてお贈りしましたところ将来のプール建設資金の一助にするようにとの御意向でございましたので現在プール建設資金として積立てあります。御了承下さい。

尙新プール施設につきましては、学内ではよりやく認める模様となっております。御支援下さいませようお願いします。

今後ともよろしく御支援下さいませようお願いします。

古林喜樂先生御退官記念、記念品代寄付者名

番号	氏名	口数	番号	氏名	口数
1	藤井正太郎	4	30	佐藤一夫	2
2	田口寛治	2	31	溝口汪	2
3	溝口卓郎	5	32	堂本直正	2
4	坂本豊一	2	33	山口仁郎	2
5	北条貞夫	2	34	松田司郎	2
6	草野嘉一	2	35	前田弘義	2
7	山田常雄	3	36	岡田昌三	4
8	板野亀八郎	6	37	岡見晴児	2
9	宮本伯夫	2	38	柴川泰介	10
10	桑川義男	4	39	太田瀆	2
11	大野整	2	40	宇賀史郎	4
12	山村宮男	2	41	井上隆史	2
13	中村市治	2	42	竹元忠彬	2
14	鈴木啓介	2	43	丸山卓也	1
15	森美夫	2	44	鈴木剛弘	1
16	山口宗樹	2	45	荒井康之	1
17	前田寿	4	46	平岡昭郎	2
18	平井洋	4	47	武政英幸	2
19	柏木慶三	2	48	鈴木正彌	4
20	熊野泰己	2	49	清水暁夫	2
21	岡本忠男	4	50	山本忠比古	2
22	三宅林	2	51	提莊祐	2
23	小西信次	2	52	滝沢章三	1
24	石井義章	2	53	前田和秀	2
25	山本幸雄	2	54	樋口周平	2
26	中井三郎	2	55	山口幸郎	1
27	浜川広海	2	56	中畑勝明	2
28	田淵五郎	2	57	手嶋忠之	1
29	榊原修造	1			

(尚一口、五百円也)

# 先輩からの便り

## 凌泳ゴルフコンペ

学 22 石 井 義 章

凌泳ゴルフコンペも回を重ねて才四回、今回は去る六月十七日  
播磨カントリークラブ(六・七四〇ヤード、パー七十二)に於て開  
催致しました。

梅雨時期の事とて雨に降られたらフンドシ一丁でプレーするか  
等と話合っていた所、雨神も恐れをなしたか、好天に恵まれ快適  
なプレーを楽しむ事が出来ました。

戦績は左記の通りで、昨年保険屋からゴルフ屋に転向した石井  
が優勝、プロ(?)の面目を保ちました。

優勝	石井義章(学22)	0
二位	岡田昌三(新5)	I
三位	中井三郎(学22)	0
栄川泰介(新7)	58	62
汪(新3)	59	62
	56	56
	177	177
	36	36
	123	123

柳本正雄(新10)	60	55	62	177	36	123
B B 三宅林(学16)	51	61	53	165	27	123
友繁嘉雄(新3)	55	50	50	155	20	125
(新3)の各氏も参加予定されておりましたが、それぞれ急用に て参加出来ず残念でした。						

尚、世話係と致しまして、会員全部に御案内さしあげるのが本  
来でございますが、本誌上をかりて予告にかえさせて頂きます。

就而、参加の如何は別として、今後凌泳ゴルフコンペの案内御希  
望の方は今すぐハガキで下記へおしらせ下さい。その他ゴルフに  
関するニュース何でも結構です、左記までおしらせ下さい。

(凌泳会ゴルフコンペ連絡所)

神戸市兵庫区小河道三丁目十一

バーディクラブゴルフ練習場

石井義章



# 近況

11回 藤岡治男

卒業以来すっかり御無沙汰しておりますが、競泳会々員諸氏には益々御健勝の事と存じます。

小生も布施市立第七中学校に赴任以来早くも四年目を迎えることになりました。当校は布施の中学校では唯一のプール所持校ですが、そこで水泳部の顧問として毎日張切って生活しております。

これもひとえに六甲大のプールで覚えた、根柢と技術のたまものと考へ、赴任以来三年計画をたて大阪に布施七中ありと言われるまでと頑張つて来ました。その三年間の成果を報告させていただきます。小生の近況とさせていただきます。

なお布施中学校水泳では3年連続優勝していますが大阪府大会となりますと、やはりレベルも高く、三年男子の二〇〇米、四〇〇リレー、四〇〇メドレー、個人メドレー、一年女子の一〇〇米等が決勝に残りました。特に一年女子一〇〇米では山田スイミングクラブの生徒をおさえて三位に入賞し、本校水泳部始つて以来初の三位内入賞（もちろん初得点）を勝ち得ました。これも六甲台プールでの諸兄の御指導のたまものと深く感謝しております。

部員が少くないので（これは練習が余りにもスパルタすぎるためでしょう）この成績は永續きするとは考へられませんが本校に居る限り、又学校にプールがある限り、水泳を忘れずに若人を育てて行きたいと考へています。

現役諸君もこの元氣発らつたる中学生に敗けないように頑張つて下さい。

〔注〕 係りの手違いで、野田氏と藤岡氏の原稿の順序が逆になつてしまいました。おわび致します。



## 続「信州の生活」

新9 野田浩志

私が信州に赴任して一年半になる。羨望計上を汚すのは昨年の「信州の生活」に続いて連続二年目、その続筆ということになる。

いかに日本の屋根と言われ、周厩を山に囲まれていても、六甲台で育った私からは「泳ぎ」を取り去れない。暇をみつければ、子供連で混雑する市営プールへ行く。日頃これという運動をしない私には又とない運動の機会になる。三時間二〇〇円也。みすゝかる信濃の水は安くて冷たい。ふと後輩の合宿にと思ひ打診してみたが、プールの少ない信州ではこれもむずかしいらしい。合宿には格好の地だと学生時代を思い出す。

この信州には、単に山岳部の練習の場だけではなく、民宿（特に白馬村は我が国の民宿のメッカだ。）を利用してバレーボール、サッカー、柔道<sup>柔道</sup>から演劇、E S S、グリーククラブ等、様々である。私の知人が白馬村で民宿を経営しているので、プールの建設を頼んでおいた。

ところで私は学生時代の友人と共に、この信州の地、白馬村に別荘の建設を計画した。白馬山麓に六〇坪余の土地を求め、今冬のスキーシーズンを目標に目下建設中だ。常識的には、アパート

または社宅任いをしてマイホームなど高嶺の花である一介のサラリーマンが数人寄ったところで別荘を持つことなどとてもない話だろう。確かにこの計画、あまり賢い人のすることではないことは承知の上だ。私達の目的はただ、都会生活を通じて得られないもの、金で買うことの出来ない「自然」を手に入れることだ。そしてわずかの費用でこの別荘を出来るだけ多くの人に利用して頂こうということだ。こうして今迄よりも手軽に自然に親しむことが出来るものと思っている。即ち、ゴルフクラブの会員制を参考に会員組織を作り会員の皆様に別荘を開放しようというわけ。参考までに概要を申し上げますと、入会金二万円也（五年間据置、以後要求により返還。）利用料は別荘の維持金程度の数百円也（未定）。若し羨望会員の中で御費用下さる方がいらっしゃれば、私に御請求下されば資料をお送りします。なお、この会員制システムについては岡田先輩（新5）にいろいろ御助言をいただき、お蔭で私達の計画もいよいよ実現することになったのである。

私はもう一つの夢もっている。それは室内プールを建設することだ。一年中泳げるプール、それができればどんなに素晴らしいことだろう。今の山の別荘に比べれば一ケタも二ケタも金の量が違ってくるので見果てぬ夢に終るかも知れぬ。信州の山から降りて神戸に帰ったらこの夢を追いつづけることにしよう。

古林先生の御退官記念号と願うこの特集号も私の近況報告に終ってしまつた感があるが、この山岳都市に来て、私はフンドシ

は忘れずに持って来た。そしてプールを見つけては泳いでいる。会社へ入ってからはとかく運動不足になりがちだが、一度泳ぐと何日分かの体力が貯えられるような気がする。

— 終り —

## 壺の会

新 12 武 政 英 幸

ゼミ旅行は十月であった。黒部峡谷の玄関口にある宇奈月温泉で古林御大を囲んでドンチャン騒いだ。「夜も更けたので静かにしてほしい」と旅館側に何度も頼まれて、幹事は大いに困惑していた。御大の達者を酒芸には誰も対抗できなかった。皆で口惜しかった……。

大阪に帰って解散した後、野村・村松・黒杭・林の四君と私の五人は、ニュートキョウでサントリービールを傾けながらの相談で、御大の芸達者振りに対抗するには、口を封ずるに限ると意見が一致した。五者会談の結果ゴロの良い十一月十一日にコンバをすることに決めた。当日は御大夫人にもご出席願うことにした。会場の手配、ゼミ生一同の回し草の打合せ等、御大の口を封ずるための万全の措置が講じられていた。会場は御影の蘇州園を選んだ。いよいよその日が来た。

いつもであれば御大ペースで進むはずのコンバが、完全にゼミ

生ペースで、御大の立上る暇がないまゝコンバは進んでいった。最後になって幹事役の謙歩で、やっと御大に機会がめぐってきた。時には残り時間あとわずかとなっていた……。御大は夫人と共に奮戦されたが、ゼミ生の作戦のせいだ日頃のさえが見られなかった。

寧が一段落し記念撮影をすることになって一回、床の間を背にしてかしまった。いや、かしまっていれば問題はなかったがその日の作戦成功にいつもより浮かれていた後列の四・五人が、肩を組んだまゝよろめいた。そして後ろの「壺」に倒れかかった。気が付くと「壺」は呑口が欠けていた。高価な「壺」であった。時価数百万円とのことであった。ゼミ生一同茫然とした。

後日打合せの結果、弁済能力の範囲内でコッコツと償うことにゼミ生一同腹を決めた。

蘇州園の御主人の張さんは大陸人の風格を有していた。風格だけでなく言動にも大陸人らしさがあった。張さんはゼミ生の気持は汲み取ったとこの失敗を寛大に許して呉れた。

このことはゼミ生一同に深い教訓を与えた。

古林ゼミ十二回生の会は「壺」の会と命名された。今年も又その日がめぐってきた。



三六五日泳げるプール、私の念願をかたえて下さい。

古 林 喜 楽

元気に研究と教育に精を出しています。

高 13 北 村 五 良

本年六月末、大正海上を退職、目下関係会社に勤めています。

又、水泳を始めましたがなかなか昔の様には参りません。ゴルフも余り上達せず、孫の守でもやる他はなさそうです。

学 1 小 山 賢之助

皆様の御愛用で株式会社も躍進しています。子会社のライオン不動産も貸ビル、宅建取引業、モータープール、損保の代理店等を兼業し、多忙です。

学 4 池 谷 俊 一

伊藤英二君らと、よくゴルフをやっています。

学 7 太 田 正 元

暇のある方、当地方御来遊の皆さん、どうか、酒とビールを飲み魚を食べに来て下さい。今治とは松山の近くです。でも全日空

は波慮された方がいいですよ。

学 9 中 村 市 治

昔を懐しく語るトシになりました。六甲台のプールで寒さにも負けず泳いだあの頃を思い出し、もう一ふんばりしなければと思っています。

学 10 森 美 夫

昨年から一年ばかり身体の調子が悪かったのですが、最近元に戻りました。今年は二回泳いだけでした。散歩のかわりに時々ゴルフをやっております。

学 10 鈴 木 啓 介

本年六月より定航二部から業務部へ転勤、企画関係を担当しています。六月〜八月の三ヶ月間、胃潰瘍をわずらい、九月末の台風二六号では屋根を柵とそぎ吹きとばされ、全くツイてない年でしたが、身体も家も大体回復しましたから御安心下さい。伊藤英二おじいちゃんと新相模でよく会います。ハンディは先生一六、小生二〇。

学 11 平 井 洋

今度左記へ転任になりました。

東京都千代田区丸の内一ー一 才二鉄鋼ビル三階

川崎車輻東京支店輸出部

学16 三宅林

今年九月五日、左記に転任、転宿しました。

勤務先 東京都千代田区大手町二ノ八 大和証券人事部

住所 東京都世田谷区玉川奥沢町三ノ一六八

学19 牛島修

本日(十一月二一日)三宅氏より電話あり。同氏東京転勤となり鉄鋼ビル御在勤の由、近所ですから、今後チョイチョイ会えるのを楽しみにして居ます。

学20 鈴木富夫

広島にもオリンピックを記念して九コースの五〇メートルプールができました。昨年・今年と睨をみては泳ぎに行きました。室内プールなので年中泳げます。小生、横浜の保土ヶ谷に此度住宅を建設して居り、来年(四二年)三月末に完成予定で、引越します。その頃東京の本社に転勤の予定です。

学21 小平喜一郎

元気でやっております。

専1 今井政一

五年と二ヶ月の京都住いより、急に転勤になり大阪へ来ました。三十三才十ヶ月、サラリーマンが板につくばかり、現状より何か飛躍したいと思ひだけ。

新3 堂本直正

四月より沼津に住んで居ります。事務所もなく同僚もない一人きりの駐在員です。多忙をきわめています。九月に女兒誕生、二人の親父となりました。

新6 岡見睦児

① 住所が変更致しましたので、連絡致します。

東京都中央区宝町一の六

日綿実業株式会社社長企画課

② 目下花嫁募集中、御協力願います。

新8 杉岡孝一

元気にやっていますが、やはり運動不足は免れ得ず、顔色はナマリ白し、胸は出て来るし、酒は弱くなるし、我ながら情なく、学生時代のあのハツラツたる身体がなつかしい。ということば、

年を取ったということですね。

新8 永野一彦

もう長野県は雪が降ってあります。

十一月二十五日 新9 野田浩志

久しく御無沙汰致しておりますが、元気にやっております。水泳シーズンと共に、昔はビルシーズンも終わったものですが、室内プールも出来て水泳シーズンが軽くなった如く、今やビルも一年中通して飲まれるため、シーズンが無くなり忙しくなりました。諸兄は、今ごろ陸上トレーニング中かと思えます。早く神戸にも室内プールが出来れば良いですね。正月に帰りますので、氷の張ったプールを訪ねるのを楽しみにしています。

新11 林 壮八郎

水泳学部を卒業される官部・阿部・久保・由佐諸兄によりしく、私、OBとなり三年もするとメッキリ白くなり、一度この顔で、武政氏はじめ同僚とも歓談したいのですが、遠方の身で残念です。東海地方は冬になると泳ぐプールがなく、最近では陸へ上りばなして、専ら登山ずいてあります。勿論、目下の処身身中。

新12 山本 忠比古

小生目下独身中で、住友商事の高昇寮で比較的文化的な生活を送っている。まだ結婚する気はないが、願わくばカールフレンドが二・三人もおれば言うことないのだが。学生時代はタフを誇っていた小生も、少々バテ気味で、カゼをひくと一カ月ほどなおらなくなった。仕事も多忙だが、それにもまして夜のつき合いはしんどいものだ。今さらながら学生時代が人生のオアシスであったと思う。水泳の方も機会を見つけて、できるだけ続けたい気持ちである。では、又：。

新12 鈴木 正 彌

「クラリーノで歩きましょう」をスローガンとして一兵卒の私は、雨あられと降りかかる弾の中で泳いでいます。

新12 武政 英 幸

前略、御無沙汰しております。ところで近況を知らせとの事、さっそくお知らせします。現在、大阪は船場のまん中で人ごみと騒音の中で無心に働いています。財務課に配属になっており、計算機、ソロバンを相手に奮闘しています。私生活は至って健全で、現役の諸君の範となるのじゃないかと思えます。これというもの、月に二・三度夜の街をさまよひ歩けば、あとは寮に直行せざるを得なくなるという経済状態だからです。 敬具

新14 中畑 勝 明

# 河童の歩み

P. 30  
2/24  
1/19

## 水泳部に望むこと

L 15 宮 部 高 博

私が水泳部に入って早や四年目のオフをむかえ、来春からは社会人一年生として実社会へと飛出すのですが、四年間の大学生活は私にとって、いまだ学生であるにもかかわらず、満足ゆくものであったと思っております。何も知らないままに、唯泳がしてくれりと水泳部に入部した私は、水泳部生活をなんとか続け通すことによって私なりの自己満足「俺は四年間泳いだ。」を感じております。編集の都合上からでしょうか、私に水泳部に望むこと、言い残すことを書いて呉れとのことですが、私に言えることは、「せいかく水泳部に入ったのだから、少なくとも四年間ぐらいいやりに通して下さい」と言うことです。四年間と一口に言いますが、短いようで実際にはやはり四年間という期間はそう馬鹿になりません。何といつても二度と繰り返すことのない大切な学生生活、青春時代ですから。しかし私の場合、その青春時代だからこそ、

一つのことには没頭できた事に、限りない喜びを感じているのです。そのつぎに、実際のクラブ活動においてどのような形であれ、積極的に働きかけて欲しいのです。水泳部というのは、それだけでは単なる名称に過ぎません。君達現役諸君が働きかけることによつてクラブは方向をもち動き始めるのです。君達のクラブです。各々自分の持ち場を守つて、積極的に水泳部活動に励んで下さい。水泳部というのは君達が積極的に働きかける時、それは一つの集団を形成します。集団ですから、そこには自から規律が生じます。その規律は、水泳部員たるもの絶対に守らねばならぬものです。主将や幹部の人達が守らせようとするものではありません。しかし一人でも規律を破るものがあれば責任者達は驚しくいまいめるべきでしょう。私はここで断つておきますが、これらの事柄は決して理くつではありません。水泳部は運動クラブですから、体を通じて味つて欲しい事です。口先だけの理くつでなく、体でそれを表して欲しいのです。

最後になりましたが、水泳部生活の四年間、諸先生・先輩の皆様に、的を射た御指導を賜わり感謝しております。社会に出ましても尚一層努力してゆくつもりです。今後とも、より良き御指導をお願い申し上げます。

(了)



## 何 故 に

T 15 阿 部 洋 三

いつのまにか六年の年月が去ってしまった。今年は自分が水泳をやり出してから、七年目である。

昭和三十五年の春。高校に入学した時に、自分の水泳生活が始まったのだ。その時の若さ、情熱はどこに行ってしまったのだろうか。高校時代においては、水泳をやる事について何の疑問も感じなかった。努力すれば出来ると信じて疑わなかった。

だが大学に入ってから水泳は、高校時代と少し違っている。泳ぎは変らなくとも、水泳というものに対する考え方は、大幅に変化した。疑問をはさんだ事のない「水泳をやる事」についても今や「何故に」という疑問が出るようになった。

特に去年あたりからは、水泳に対する情熱は、目に見えて無くなって行った。

大学生活に、大きな期待をかけて入った自分の前に、真の大学の姿が表われた時、心の中に大きな空洞が出来たような感じがした。そして大学においては、その空洞を埋める為に、水泳に生甲斐を見出そうとしたのだ。

高校時代においては、理想の追求の一環としての水泳部生活だ

ったのが、大学においては、なんと破れた理想を、繕うためのものでしかないようになったのだ。

その為に、自分なりに建てなおそうとした大学生活と、水泳部生活は両立するものでなく、相対立するものとなった。水泳をやればやるほど、余計に心の中に満たされない物がある事を、はっきりと認めるのだ。

自分の部でありながら、そうでないような感じがした。高校時代には考えられない事であった。我々の部は、我々の部でなければならぬはずであるのに、個人の意志を無視した行動が多すぎる。大学生の集団でありながら、非常に封建的な我々の部。下級生の間はあまり強く感じなかったが、上級に進むにつれて、部員相互の孤立を感じずにはいられなかった。

下級生の頃は、何が自分のやる気のなさの原因かはっきり掴めなかったが、去年あたりからしだいに理解するにつれて、まったく何故に水泳をやるのかわからなくなってしまった。

自分の大学生活と矛盾するものでありながら、実際には非常に大きな重さをもつ部生活。自分としては、水泳は好きである。別に大学生活に失望しなくとも、記録の更新をねらって水泳をやったであろう。だがその場合、今のような部ではやはりやる気を無くするであろう。

自分の理想とする部は、一週間の内の、月曜日から金曜日までが自由練習であり、土・日のみ合同練習である。このような考え

が実現出来ると思われないが、我々が大学生としての義務を考え  
た場合、これが当然でなければならぬと思う。

自分にはもはやその実現の可能性は失なわれてしまった。不満  
に感じながら、何もせずに終った事は、ひきょうかもしれないが  
やはり部に対する愛着が、自分の特異な考えを押えたのだろうか。

## 水泳部 いいなあ

T 15 由 佐 禎 男

水泳にはいつて以来、何の甲斐もなかったかに見えたけれども  
四年目にしてやっと次の決断めいたものが出来上った感じである。

すなわち、自ら進んで団体にはいるのは、自分の場合はひかえ  
た方がよいと言うことである。団体生活を続けそのよさを十分味  
わって来たのに避けた方がよいなどと言うのは、妙だと思われる  
かもしれないが。以下四年目にしてやっとクラブの意義を自分な  
りに考えた馬鹿を野郎のたわ言と思つて辛抱して読んで下さいま  
せ。

水泳部にはいつた時はただ泳ぎたい、泳ぎが好きだというそれ  
だけのことであったのが、いつのまにかただ泳いでおればよいと  
いうのではクラブあるいは部員に対して通用しなくなつていた。  
高校出たての甘ちゃんだった自分は、何の考えもなしにあるいは

むしろ何も考える力がなかったのだと思ひが、しだいに自分とい  
うものを考え出したころにはもはやどうにもならぬ悔いがあった。  
非常にしゃくにさわつた。なぜに自分はこんなことを なければ  
ならぬか、なぜに言わねばならぬか。全ての人が一度は陥れると  
思ひけれどもこの反抗に似た感情は自分の場合特に強かつたと思  
ひ。ならばなぜ水泳部から逃げなかつたか。当時は全くいじと見  
栄のためであつた。今となつてはこういうことを経験させてくれ  
たクラブにただただ感謝するのみである。絶対に当時の自分はク  
ラブのじゃまもの以上の何者でもなかつたにちがいない。よく首  
にされなかつたものと今では冷汗が出る思ひである。

まさか自分みたいな馬鹿者はいないと思ひが、いやになつたら  
にげては何にもならない。いやなものにふてぶてしく向つて行く  
方がよい。

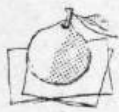
たしかに人とのつながり特に利害関係のないクラブ活動に於け  
るつながりは、人にとって大変有意義である。心と心のふれあい  
は確かに大切である。これがないならば、クラブというものは自  
分にとっては無意味なものとなつた。が利害関係のないつながり  
は大変な義務を個々人におしつける。自分自身が不完全であるの  
に他人に助言をしてくラブの運営に口を出すことは、自分にとって  
は大変なことである。才一に恥かしいしまた前述のような考えを  
自分はいまだにもつてゐるからである。いいかっこを言わねばな  
らぬ。言わねばいいと言う人は無責任である。クラブにはいつた

からにははしくなくともクラブをよくせねばならぬ。この義務はクラブにはいつた時から必然的に発生する。いやな人でも最高学年になればいやではすまされぬ。最も自分はなけりゃないですまされると思う。つまり何かをやる責任がついてくるが、何かをやらねば責任もついてこない。自分のこういう考えを人はほとんど消極的だの若年客だのというところをみると、世の中には自ら進んで責任をとる事を作る人が多いらしい。あるいはだれもがいやだと思っているのかも知れないが、団体は人が集ったそのときから一個の人格以上のものをもつからそれに逆らえないのかもしれない。

こういうぐあいに利害関係のない団体—ここではクラブであるが—は、それに属していく以上苦烈な義務をおしつける。これを自己犠牲というなら、自分はこの自己犠牲は嫌であるけれども、自分にも他人にもそれを強いねばならぬ。本當につらいことである。ある人はそれを尊いという、本當にそうなのか今だにわからない。けれども俺は水泳部が好きである。

水泳部いいなあ。

終り



## 「ポロ」

T 17 熊岡 誠 二

水球担当は僕といったことになっているが、来シーズンは水球にとって非常にむづかしい時になりそうだ。試合経験者は四人、その内三人が一年である。この三人は一年しかやってないにしては、今シーズン中四年生にきたえられ、フォワードとして全試合に出場したのでその進歩は目を見はるものがあるが、やはりキャリアの不足、ボールワークのまずさやらで、まだ信頼のおけるものではない。又この僕にしても二年間練習してきたと言っても、それはキーパーとしてだけなので、フィールドに出れば彼等程ではないと思う。

そこでチームがこんなにも素人臭くなったからには今までと同じような練習方法、試合方式ではさほど効果を期待できないのではないかと思う、というのは聞くところによると今までの水球練習というのは、一年間は二軍として基礎的なものしかさせないで、二年になるとその中から選り出されたものが一軍に入り、三年くらいから大事な試合に出してもらえろということだが、今の我々にそれと同じ戦術をやれというのは無理な話と思う。そこで我々に向くような方法を考えなければならぬ。そこで次に僕が考えた事を述べて行きたい。

防禦……今まで一番おろそかにされていた所だと思いが、アタックなどは泳げるものであれば徹底した指導さえあるなら比較的楽に憶えうるものと思ひ、それとゴールエリア内と外との防禦のちがひ、又フォードの場合の防禦方法など僕の知らない事が多いので是非先輩の指導をお願いしたいと思つています。

パス……現在の部員はマークがついたならばパスがほとんど通らなくなる、つまり動きつつパスが出きない。というのには練習中のパスワークがスタンディングに傾よつてゐるよりに思われるからもつと動きのあるパス練習をしたいと思ふ。

シュート……今のフォワードはシュートの力とコントロールが不足である、又シュートの種類もせいぜい二、三種である。それとループの研究もまだまだ、シュートの練習は興味をもつてやれるので競泳練習のあいまでも個人練習を主体にしてやつていきたい。

フォーメーション……これなどは最も改革を必要とするのではないか、特にセンターフォワードのフロートは今まで見てきた所では、プラスになるよりマイナスの部分の方が見立っている。ゴール前の乱戦になつてフォワードが動きのとれない事になるのは、主にフロートに原因してゐるようである。今後、サッカー等の他の球技も研究して、フォーメーションをより合理的な動きの出来るものにしたたい。

まだまだ僕等水球について知つてゐることは少ないので、先輩

にご援助いただいて、チームを強くしていきたいと思ひます。今の一年生が三年、四年生になつた時きつと強いチームになつて行くよう努力しようと考へてゐます。

## 雑 感

主将 鈴木 俊彦

私が水泳部をまかされて、早くも五ヶ月にならうと思つてゐる。最初のうちは、全く自信がなく、どうなることだらうと思つてゐたが、この頃になつて、ようやく自信がついてきた。この自信は、どこから生まれてきたのかと言つと、皆の気心がだいたい解つてきたからである。キャプテンを引き受けた時、まず心配になつたのは、二年生五人が、うまく、まとまるかということと、一、二年生が、なれ合いにならないかということであつた。このようない、二年生だけのクラブでは、二年生がよほどしつかりまとまつていなければ、とてもクラブ活動がスムーズに行くものではない。しかし他の二年生は、僕をよく盛り立ててくれ、一年生もよくついて来てくれたので、この心配はしだいに薄れていつた。実際一人一人をじつと見てみると、皆いやつばかりである。より一層まとまつた状態で、新一年生を迎へることが出来れば、まず安心である。さて現在のクラブの力はどうかといつと、これはまず心配ないであろう。近來にないツブぞろいであろう。昨シ

一メンの終りに近い、「近体」に於ては、四年生の力を借りたとはいへ、まず危げのない勝利であったし、「旧三商大戦」に於ても、競泳では圧倒的勝利をおさめることが出来た。この勢いは、まだまだこれからのものであるから、今シーズンには驚異的な飛躍をとけるのではなからうか。唯、欲をいえば、フリーとバタフライの力が少したりないように思う。この両種目で、もう少し得点できれば、おそらく史上最強のチームが、出来上ると思う。スポーツは、勝たなければ意味がない。参加することに意義がある等というのは、負けおしみである、他の種目の者も、もちろんであるが、特にこの種目の者は、一層の奮起を望む。

物事を成功させる為には、可能な範囲で、目標を立てて見るのが大事であると思うので、次に来シーズンの目標を立てて見たい。

第一に、全国国公立戦に団体で出場することである。これは関西で二位になれば、よいのであるから、比較的楽であろう。この出場権さえ得れば、全国でもかなりの線に行くものと思う。今シーズンには別府であるという話である。せひ皆そろって行きたいものだ。

第二に、関西インカレの一部昇格である。

これも強敵府大が、昨年一足先に一部入りしてしまったので、楽かも知れない。この二つは、宿敵、京大、阪大にさえ勝てば可能なのである。現在の力を持ってしても、それは出来ると思うのだが………

最後になってしまったが、もう一つ是が非でも、やらなければならぬ事、それは、旧三商大戦に於て、競泳、水球両部門で完全優勝することである。昨シーズンは、競泳のみ優勝したが、おそらく諸先輩には、非常に残念なことであったと思う。今シーズンは、せひとも総てのカップを取り返すつもりである。

以上の三つが今シーズンの、最低の目標である。これらはみな、可能性が大いにあるものなので、今シーズンの神大水泳部は、非常に期待できるものと確信する。

## 反 省

E 15 久 保 佑 四 郎

一年間、マネージャーの任務を仰せつかり何の役にも立たぬまま、次の木君内に引継いで貰いました。一年を振り返れば赤面することばかりです。暇がまっても無為に時を過すことが多く、先輩の方々との現役とを結ぶパイプ役としての活動も十分に出来ず、又経理面においても、悪化したとは言え、改善されたとは言えぬ状態で、来るべきシーズン初頭の合宿費の貯えさえ無く、心配ばかり多い。

四年生が四人という少人数では、不適任を私でも、マネージャーをするより他任方がなかつたと言えばそれまでですが、私は私な

りに反省すべき事が多い。任務は遂行しなければ、責任を全うしたとは言えないということ、やるべきことが出来るか出来ないかということ、能力と責任感次第であること、これが乏しい人間は、あまり大きい顔は出来ないということ、志ある人間ならば努力すべきであるということ。

よく結果よりも過程が大事だといわれることだけど、目標の無いところに努力もない。たゞ情性だけにすぎない。根性といわれるものも目標に対する確信の強弱にすぎない。

現役の諸君は最低二年間の学生生活がある。人生に対する夢を大いに論じあって、クラブ生活を有意義に、又盛んにしてもらいたい。卒業した後も、皆の活動ぶりを見ることを、楽しみにしていただきますので、出来るだけ、試合練習には顔を出すことを約束していただきます。



## 題名のない文

E 17 前 田 信 雄

私が水泳部に入部したのは、一年生の時代も半年過ぎ去った九月半ばの頃であつたと思う。入つた当初は、水泳に対する深い知識も、それに対する希望というか野心というか、なぜかそういうものは持っていないをかつたように思う。だから最初は、自分は体を鍛えるためにやっているんだと言いきかせて陸トレに無我夢中でやっていたようだ。事実、自分の体が日ごとにくましくなっていくのがうれしかったし、誇りでもあつた。しかし、人間一つの事に夢中になる時、一度は「何故、俺はこんなことをやるんだろるか」と自分に言いかけてみる事があると思う。私も幾度か考えたり、又結論はでなかつた。水泳をやつたからといって、自分の表面は変化するかもしれないが、生れてこの約十九年間に、自分の内に育くんできたものは全く不変であるように思う。が、しかし時おり、自分でこんな事を昔の自分であつたらやつたであろうかと思ふような言動があり、不思議に思ふような事が幾度かある。これも水泳部に入つて、今まで経験したことの無いクラブという環境の中に置かれたためかなと考えることがある。ただ、自分が進歩しているんだとは、日頃感じる所である。ここでいう

進歩とは何かと問いつめられても私は答えることができないが、しかし、やはりそういう言葉は妥当ではないかもしれないが、本能的に感じるのである。一つの具体例をあげれば、私はおそまつながら経済学を今勉強しているけれども、練習とバイトの時間とのあい間に経済学の本をかいつまみ知諺を得る喜びを、はしくれながらもわかつてきたつもりでいる。自分で問題を解く楽しさができた時の喜びを今始めて本当に自分のものにする事ができたように思えるのです。誇張ながら、もしもあの時、クラブに入っていないならこの喜びを得ることができたであろうか甚だ疑問なのです。私には、又この頃になって、もう一つの喜びを得ることが出来るようになったのです。それは泳いでベストを出した時のあの気分の爽快さなのです。自分のタイムが上昇するのを、何故か喜びずにはいられないのです。無条件にうれしいのです。純粹な喜びでしょうか。私はこの喜びは全く純粹とは言わないまでも、他のどんな世俗の喜びよりも価値あるもの、尊重すべきものであると、この頃やっと信じられるようになったのです。一杯泳いでいる人間の中に何の純粹でないものが入りこめましよう。私は太宰治の小説が好きで、いつも物事を懷疑的に見るくせがあります。クラブのみなさんには、横着の私からは、こんな印象を受けられた人はいないのではないのでしょうか。事実私は、日常つとめて陽気にふるまっているつもりですから。又その懷疑的傾向も現代の青年の一般的傾向かもしれませぬ。私の文筆は、

いつもその主題がなく、だらだら書く傾向があります。というのは、私には、物事をそうだと判定する勇氣も信念も持ち合わせていないのかもしれません。最後に私の好きな言葉を一つ。

「何事においても、それについての短い命題は、どれも人をまどわしやすさ」

(ただし、この短文だけは例外である)

JIM R = ?

X → ∞

17 木内資雄

水泳部も他の運動部と同じように、シーズン中だけでなく、オフにも練習をやっています。特にシーズン中には、部員は殆んど毎日練習をやっています。傍観者の目から見れば、なんであんなシンドイ練習をしているのか不思議に思うかも知れません。何故練習をするのか。部の成績または個人の能力をたかめる為にか。或いは体力づくりのためにか。或いは、東京五輪後流行の根性を養うタメにか。いろいろあると思われませんが、ここではこの問題は一応棚上げすることにして、練習とその成果(記録)について考えることにします。

幸い水泳の成果(成績)というものは、具体的な数字(〇〇メートル〇〇分〇秒〇)であらわされます。(野球等の球技では、

AがBより0.5秒うまい、などとは表現できませんまい)つまり成績の評価がしやすいということになります。

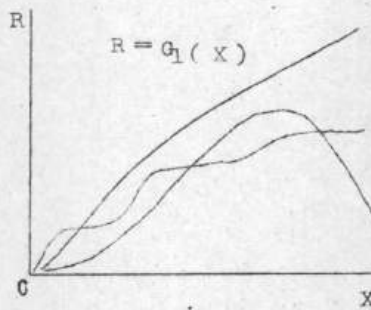
さて、一般的に言えば誰でも練習をすれば、記録は向上します。

このことは、記録を向上させる主な要因が練習であることをあらわしています。「主<sub>な</sub>」とことわったのは、記録を向上させる要因がその他にいろいろあるからです。例えば、身体の調子(または体力)、心理状態、ブールの状況、天候とか。ここで練習量をX、体力をP、記録を向上或いは低下させるその他の諸要因を $t_1, t_2, \dots, t_n$ とします。記録をRで表わすと、 $R = X \cdot P \cdot t_1 \cdot t_2 \cdot \dots \cdot t_n$ の函数、つまり $R = f(X, P, t_1, \dots, t_n)$ と書き表わせます。次に $t_1, t_2, \dots, t_n$ は無視し得るものとする $R = f(X, P)$ です。記録Rに関係するのは練習量Xと体力Pの二つと言ひ事になります。ここで気力(根性)が抜けていると考える人もいるでしょうが、泳いでいる時には全力を出しきっていると仮定すれば省略してもよいと思います。

さて練習量Xと体力Pの関係について考えてみましょう。水泳連盟のお偉ら方なら体力の続く限り練習をするのが良いと考えるかも知れませんが、幸か不幸か我々は、そういうことはできません。そんなことをやったら、学業にさしつかえます。この事が一番つらいのです(ホントかね)。しかしここでは話を単純化するために、練習は体力の続く限り行なうと仮定します。練習量Xと体力Pの関係は $R(X, P) = 0$ です。特に $R(X) = P$ と

せずに $R(X, P) = 0$ としたのは、練習によって体力がつき、するとまた練習量が増すというように、XとPの因果関係が明確でないからです。

さて $R = f(X, P)$ と $R(X, P) = 0$ から $R = G_1(X)$ または $R = G_2(P)$ が得られます。つまり記録は練習量(または体力)に依存するということですが(こんな事はあらたまって言う程のことではありません。常論です)。面白いのは、練習量(体力)を無限大にすれば記録はどうなるのかと言ひ事です。この



$R = f_1(X)$ と $f_2(P)$ は、はじめのうちは右上りです。したがって、 $f_1(x_0) = f_2(x_0)$ なのでしようか。それとも、横軸に平行な漸近線があり、 $f_1(x) = \text{Const.}$ なのでしようか。それともXがある値を越えると、 $f_1(x)$ は右下りになるのでしようか。

ある意味では、この $f_1(x)$ を追求しているのが真のスポーツマンなのかもしれせん。

## 水 泳 雑 談

J 18. 木 村 多加緒

水泳も競技である限り勝たねばならないし、そうでなければ面白くない。そのためには人以上の強い練習が当然必要なのである。もちろん勝つ事だけに意義があるのではない、他に何か得るものがある、という人もあろうが、少なくとも僕はそのような何かモヤモヤとした物を目標として原始的本能的行動のくり返しを毎日続けることはできない。まずサーに『勝つ』という事が大切だと思ふ。そのためには自分のタイムを上げねばならない。練習の本質的目的はタイムをあげることである。苦しい練習のうち勝つ、自分に勝つ、それが目的だと言われる事もあるが、それでは一体練習に勝った、自分に勝ったとはどのようにして判定するのであろうか。単なる自己満足に終るだけではないか。練習の結果として記録が伸びるという事が大事なのであり、そのために自分に勝たねばならないのである。そして練習の目的である自分の記録を向上するという事は他人に勝つために行われたのであるから最終的目的は『人に勝つ』ということになる。だから水泳を競技としてやっている以上、水泳の練習を水遊びとしての楽しみと考えることはできないはずだ。そのためにはそれなりの場があり時があ

るはずだ。僕は勝つ対象として何者かを目標に選ぶべきだ。練習時においてはそのタイムを相手にすべきだろう。

人に勝つということは元來人間の欲望なのではないだろうか。どんなに弱い相手でも自分がそれに勝っていると感ずる事、即ち優越感自分の位置に対する不安からの解放を行なう。また勝つ事は自分が一定のわく内においてある一定の位置を占めていたいという欲望をも満たすものである。この位置に対する欲望はクラブをやめるといふ者にとって非常に大きな問題ではなからうか。自分が部の中で自分の満足できる位置を占めていれば、退部という気持は他に理由のあるにせよ、おさえられると思ふ。以上はぼくの一方面的な見方による意見であつて、なんら客観性を持つていず、人にこの考え方を強いる気持はない。

さて、これからの水泳部に対する希望というか、そういった事について紙面をうめようと思ふ。これまで述べてきたことからわかるように一口に言えば、それは『強くなる事』である。自分が帰属しているものが強いという事は自分が強いということに優るとも劣らない力を持つものである。大きいえば、それは人類であり、国でありということになる。大阪に住んでいるということ、東京に住んでいるということに対して幾分かの優越感を覚えたこととはないだろうか。それは、大阪・東京が良い都市だという誇りから出たものではなくて単に大きくて強力だからではないだろうか。もう少し身近かなものでいえば、この神戸大学である。これ

に属しているということが自分の優越感を満たしてはいないだろうか。そんなことはチットもというひねくれ者もあるだろうが、きつとどこかで知らず知らず自分の気持ちの中に起っていると思う。話がだいはずれたが要するに言いたい事は、自分が勝つ事と部が勝つ事とはほとんど分離できないほど接近したものだといふ事だ。では部が強くなるためには何をすればよいかといえどももちろん現在の部員が各々強くなることはいうまでもなく必要なのだが、もつと大事なのは新人の獲得ということだろう。毎年十五人の入部は最小限必要であり、そのうち少なくとも十人が二年生以後残る事が必要だ。未経験者を入学前に勧誘することは、おそらく不可能だろうから、できる事は高校の水泳部員に当るしかないだろう。冬から春への一時期はそのことに集中すべきではないだろうか。今年も相当力をいれられた様であるが、来年からはますます熱心にやらねばならないと思う。また、それら新入生を受け入れる部の体制もガッチリしていなければならぬだろう。今年の秋からは二年生と一年生だけになってしまう。最後に二年生の方々にしっかりと厚くらを引っぱっていただく事をお願いして終ります。



## バックからフリーへ

P 18 沢内孝夫

「僕は、大学へは、運動をやるために来たのではない。」と多分、いや絶対、すべての運動部員は言うだろう。しかし、大学生活四年間をふり返った時、その言葉に反する大学生活を送った大学生は、なんと多いことであろうか？ 僕達水泳部員も、そのようになる可能性が大なのである。

僕は、神大へは、特定の学問を研究するのだという、はっきりした目的を持って来たのではないし、学生運動をしようと思つて来たのではないし、就職の時に有利になるために来たのではない。ただ、高校の時の状態で社会に出るのがイヤであったのだ。だから、大学では何かを得たいのだ。それを得て社会へ出たいのだ。勿論それは、水泳からではない。だから水泳は、「水泳のための生活」とならない程度、いやもつと軽い程度にやろうと思ひ、又国公立においては、冬の練習などはしないものだと思つて、神大水泳部に入った。故に、このクラブの練習状況は驚ろきであった。驚ろきであったが、高校ですてにこのような状態を経験して来たので、別に、苦しい、つらいとも思うことがなく、三ヶ月間過して来られた。根本にこのような水泳そのものに対する疑問を持つ

ていたので、背泳は速くならなかったのかも知れない。だが、水泳をやっている限りは、速く成りたいと思っていたのは当然である。そして、何んとなく三ヶ月間が過ぎたのであるが、この三ヶ月の間に、僕の泳泳というものに対する考え方は、本当に変わったのであるうか、それとも水泳というものから離れられないというアキラメから、惰性的に水泳生活を送っているのであるうか。僕は、この原稿を書いている途中で、僕の泳泳に対する考えが、どちらであるか解らなくなった。しかし、これだけのことは言えるのである。それは、僕は、少なくとも夏の間は、水泳から離れられない。そして、この神大水泳部に入っている。そして、水泳部員すべての願いの才一は、この神大水泳部が強くなることである。だから、部員である僕は、この神大水泳部が強くなるために努力すべきである。では、強くなるためには、この僕は何を成すべきであろう。僕は背泳をやっている。背泳をやっている限りまず神大水泳部において、背泳の才一人者になることである。でも、僕の背泳のフォームを人から聞くと、どうしても才一人者になれそうもないのである。背泳に徹せないことは、それ自体恥かしいことである。では、これからの四年間、なにがなんでも背泳を続けて行かねばならないと言うのか。僕はそうは思わない。いや思いたくないのかもしれない。背泳に対する執着というものも勿論持っている。しかし、背泳においては木村と福田がいるではないか。そして二人共伸びるであろう。僕において、伸びる確率

の少ない背泳にしがみついているよりは、より伸びる可能性の強いフリー、そして神大水泳部の一つの弱点であるフリーに変わってやるのが、神大水泳部が強くなるために一番良い道ではないかと思うのである。それが、すなわち神大水泳部が強くなること僕にとっても一番満足のいく水泳部生活になると思うのである。そして又、強くなる道で、得られるものも大きいと思うのである。今日は七月五日、水泳シーズンの丁度まん中である。後の半分の水泳シーズンこそ、思いきりフリーにぶちまけたい。これが今のこの瞬間の僕の考えである。

三ヶ月間に、僕はこのように、水泳を重視するようになってしまった。水泳を重視する考えは、大学生たるにふさわしくないかもしれない。学生運動にも参加し、学問も真に追求し、体も鍛えるのが、真の大学生であろう。しかし、そんなたくさんのことを僕はできない。まず教養の間、いや一学期の間、すなわち後半のシーズンには、水泳オンリーでも良いから、思いきりやろう！水泳を!!

## 一年生紹介

P 18 D・FUKUDA

変泳の原稿を出せと言われても筆不精で書くことがないので、

一年生の目から見た水泳部の一年生を紹介しようと思う。

陳 熊本出身でプレスト。練習は頑張っているようでよくながす。神大ブレで5番目（最下位）で試合は4年間出場できそうにもないのに、バタフライに転向しろと言われてもがんとしてきかない。ギターが少し弾けるので毎晩六甲ハイッで練習しているそうだが、事の真相は？

菱田 フリーからバタに転向。インターバルでは後に行くほど記録が上がりに最後にベストをよくだす変り者である。むねが大きなハート型にいかれていて、オ一銀行に行きたいが女性にみせるのがはずかしくて他人にゆずっている。しかし阪大の薬学部の彼女（加古川東のファーストレディという話）に治療してもらっているとのこと。どうもそれでやられたらしい。

木村 高校でフリーをしていたが伸び悩みバックに専念。しかし神大フリー陣をごほうぬきして八百継泳に切札（？）として出場している、現在神大のボープであるが、この頃練習でながすのが目立つ。最近高校時代の彼女にふられ、そのせいか短気でおこりっぼくなり、上級生も扱いはびくびくのようなのである。

沢内 バックの三羽鳥の一人と期待されたが意外にも奮わず、フリーに転向。結果、吉江・熊岡両二年生をふり一躍ロング面の才二人者におどり出、本人もやる気充分である。情熱家で、何でも一度はしてみないと気がすまないらしく、あれこれと手を出している。特に自治会活動やデモが好きで、練習もぼったらかしに

して参加する。現在先生の卵であるので、将来息子をまかすのが心配である。

菊田 プレスト。やっと高校の時のレベルに到達したと喜んでいる。現代大学生の代表である。授業にはほとんど出ず、パチンコ・マーじゃんその他かけ事に目がなく、酒にも非常に強い。ただ目が良くないので試験場ではいつも苦勞をしている。

福田 筆者でバック。練習は真面目であるが高校の時の記録にほど遠く、沈滞気味で本人もやる気をなくしつつあり、個々フリーに色気を出しているがさっぱりだめ。

見かけは勉強熱心で真面目そのものである。しかし事実は小説より奇なりで正反対。高三の夏休みに一日平均三十分も勉強せず（宿題はもちろんの事）。小中時代成績は拵群でオール5もとったことがあるが、高校では勉強不足がたたり後から数え九ほりがはやく、はずかしくてここでは紹介できず。初恋の人は中学の時に毎晩夢にまで見たのだが話しかける勇氣がなくなりやむやに終る。だがたぶん彼女も傑の事を思っていてくれたと現在も信じている。現在は中学の時から毎年年賀状と暑中見舞をくれる友達がいる。最近では他にいろいろ絵ハガキや手紙をくれるので今後が楽しみ。

話がへんな方向に進みあいすみません。又書面の都合で他の一年生、玉麗（ロング面の才一人者）、栗原（ブレ）、以西（フリー）、井上（フリー）、もう一人じで入院している井上（多分由

佐氏からプレゼントされたらしい）など紹介できず、残念です。

あ  
ー  
っ

T 18 陳 東

活版

僕が水泳部に入ったのは水泳をこのうえもなく愛していたからで、泳がずに夏を過すなんてとても僕には考えられないことだ。青いブルを見たと胸が希望でいっぱいになる。わくわくしてくる。キックボードボーンしあわせだなあ。何でこんなに楽しいのかしら。

ところがここでゆゑしき不文律が水泳部にはある。即ち「速く泳げかし」。これは驚しい。この一律によって水泳部は統治されているのだ。これがなくて水泳部は存在しないし、水泳部あれば必ずこの不文律がある。速く泳がなくてもいい水泳部がないわけではないのだけど、そんなものは水泳部と呼ぶのが間違っているらしい。とにかくみんなが速く泳ぐことを目標とする部をもって水泳部とするんだ。そこで水泳部内においては、速く泳げないものは劣者であり、速く泳げるものが優者となる。悲しいかな僕は、速く泳げないから劣者であるわけだ。認めたくないことだけど、「速く泳げかし」という不文律のもとではいかんともしようのないことだ。この不文律の速くのところを寧ろと改正したいね。

でもそれは無理な願いだ。やはり自ら速く泳げるようになって、自然と速くが寧ろと思えるようにならねばならないものらしい。困ったな。女の子のようなか弱い、デリケートなからだど心しか持たない僕だから、人より速く泳げるようになれるかしら。とても木村君や玉置君のようにはなれそうにない。なりたいけれどなれないんだな。これは悲劇だ。水泳は好きだけど水泳をよくしない。意欲はあるけど才がない。愛しても愛されない。あーっ。

### 夢みる少年の稚拙なる歌

堀 田 東 英

御まなざし

知らぬふりにて通り過ぐ

なすすべ知らぬ片恋ひゆゑに

くちなしの花の香りの君により

その名はじめて

知らされしかの日

麦ばたけ

夢みる君と語らひて

雲の上までしあわせなりき

門辺にはこそもひまわり立てるらむ

君ほほえみて

我に給ひし

言の葉に

らしきことども言ひやれど

ただに好きとはつひに言はえず

泳ぐわれ胸厚くなりぬ

いつの日か

君を抱くによからむとぞ

かわいくてかわいらしくてかわいくて

なんとも言えぬ

かわいいひとよ

## 水泳部に入って

B 18 井 上 史 朗

僕は水泳部で一番新しい。一番水泳歴も短い。今日で約二週間なのである。途中から、しかもシーズンの最中に入部して今年は何もならないうら。それはわかっていた。でも来年二年生となつて入部するよりはよいはずである。だから二年で入部したのだと思つてがんばっている。「神大の水泳部のことだから大学になつて初めてやつてもあまり差はつかないだろう。高校時代に水泳部について神大に合格するのは難かしいだろう」と思つていたが、経験者も多く今からでもいいのかなと少し心配だったが、未経験者でも速い人もたくさんいるので、「よし」という気である。入部して二・三日して合宿である。合宿の疲れるのは、高校時代他の部で経験があるから知つている。しかし水泳は違う。毎日の練習だつて一番しんどいクラブである。それが朝から晩まで泳ぐのだから相当なことだと思つた。他の部員は今まで泳いできている。僕はと言えば高校時代体育の時間と海水浴の時以外は水泳パンツをはいたことはなかった。一週間もいや一日だつて続くかなと心配だった。『とにかく一生懸命やつてぶつたおれたら休ませてくれるだろう。それでもいいさ』と思つて参加した。最初は

『合宿が終つてから練習させて下さい』とよほど頼みこもうと思つたが、強くなるためには、速くなるためには、合宿は一番いいと思つて、いや知つていたので、『合宿が終つてからでは差があきすぎる。この合宿中にできるだけ差をちぢめてやろう』と思つたからとにかく参加した。が一日目が終わるとぐったりとした。『あと六倍もある』と思うと憂うつだつた。六倍という数字はいやだつた。二日目が終わつた。一挙にあと二倍半になつた。

三日目になるとやつと水をなれて来た感じがした。四日目、練習は少し早く終わつた。三宮に遊びに行つてちつとも休養にはならなかつた。五日目、今まで特別練習でロングばかりやつてインターバルの味を知らなかつたが、今日は朝から晩までインターバルをやつて百本行くそりである。最初から百本なので『ああ!』と思つたが無事終わつた。六日目、明日は軽い練習らしかつたので最後の合宿と思つて一日終えた。七日目、形式的最終日。レースだつた。台風の中だつた。でも合宿は終わつたと思つた。実際すべてにベストを出して八百泳いだらしごきだと予想していた合宿は終わつた。

合宿中記録はぐんぐん上り、楽しかつた。一番の成果は、一番しんどい合宿を無事終えたのだから、これからの練習でも立派についでいけるという自信がついたことである。記録は毎日ベストであつた。四百と八百であるが、八百でいうと調子がいいと一分二・三〇秒縮まつた。一〇秒とか二〇秒とか縮まつてもうれしく

なかつた。泳いだ後でも、何分か聞くのが楽しかつた。でも早く記録が伸びないといつてなやむ程の記録までなりたい。バック、プレスト、バックの者に負けて増しがもたらえるようになりたい。

## 勝 負

E 18 玉 置 明

我々スポーツマンには「勝負」というものが常につきまとう。近頃、特にこの勝負というものに色々と考えさせられ、勝つことの困難さを改めて知らされた。ある試合に勝つ——自分の目標を達成する——ために我々は練習するのだ。その練習そのものもがもうすでに勝負の領域に入つている。つまり練習が勝負なのである。いくら練習中に速く泳ぐことが出来ても試合で自分の実力を出し切れないのは、まだ練習のどこかに欠陥があるのではなからうか。試合に出る以上、勝つことを才一の目標にせねばならない。勝負に勝つに必要なものは一番に「自信」だと思われれる。その自信をつけるのは、練習以外の何物でもない。運よくいつて試合で自信をつけることが出来る者もいるという人がいるかも知れないが、そのような自信は過信に近いものだと思はる。もう一つ、勝つことに欠かせないのは「気力」である。本当の意味で自信のある人が試合に勝つためには、その「気力」は余り必要でないかもし

れない。しかし勝つことが明確であるような試合はすでに勝負の域を出ている。つまりただいつもの様に泳ぐだけで勝つのである。自分の現在の能力以上の能力を出すことが出来るか否かが勝負なのである。しかるに気力というものは勝つためには不可欠なものである。この気力も練習で養われるはずであると僕は思う。本当に苦しい、その苦しい時の頑張りが気力に満じるものではないだろうか。一つの試合が終つて、又もう一つの試合がやってくる。それが終つて又次のがやってくる。一つの試合に勝つても次の試合で負けてはどろにもならないのである。勝負の連続なんだ。この勝負の連続が人間の限界を拡大しているのではないだろうか。我々はスポーツマンとして自分の限界を考えるべきではないだろうか。

ここに「己に勝つ」という言葉がある。どんな人間も、誰にも決して負けたことがないというのではないだろう。どんなに強い人間でも、己にだけは何度も負けているのである。でも強い人間は何度も負けても、又何度も己に挑戦するのである。真のスポーツの意義はここにあるのではないだろうか。



## 水泳部と私

T 18 以 西 吉 一

「なぜ水泳部に入ったのか」とよく問われるが、私はいつも曖昧を返事ししかしなかつたようである。

実際、これといった理由もなく入学してきたわけである。これといった理由もない、ということば、入学以前から水泳部入部ということを決めていたのではない、ということである。ではどうして水泳部に入部したかという、それは、入学式当日、以前から何か運動をやりたいと思つていたので、水泳部の受付が目にしたので、水泳部とはどんなクラブかと思つてその受付へ行き説明してもらつていろいろちに、久保さんと吉江さんにうまく口説かれて、いつのまにか水泳部が気に入り、入部の署名をしてしまつていた、というよりな次才であつた。

私の初めて入つた運動クラブ——水泳部——は、やはり、キビシイ規則を持ち、キビシイ練習のある、キビシイ運動クラブだつた。やると決めたらどこまでやるさ、と覚悟したもの、最初はあのキビシイ練習においてみんなになかなかついて行けなかつた。またこのクラブになかなか馴染めなかつた。馴染めない理由の一つとして、部内の上級生下級生間の言葉使いがある。私の先輩に

對する言葉使いが悪い、ということではキャプテンの官部さんや、または同輩からもよく注意された。私は、国では、年上、年下の別なく同じ言葉を使っていたので、ついその癖が出たのだが……。

私の言葉使いについて、城南高校での私の先輩の木内さんの例もあるので、徳島は言葉使いの悪い方言の多い田舎のようにされてしまった。こんなことを徳島の人から聞いたら私は怒られるかもしれないので弁解するが、徳島は田舎には進まないが、言葉使いが悪いのは私であって、徳島の言葉使いが悪いのではないことを私を犠牲にして申し上げておきます。

私の生活は水泳部中心で、何をやるにしてもクラブの日程を考慮に入れていた。水泳オンリーになるのはいやだという人も居るかもしれないが、私は、何か一つのもの（この場合水泳）に専心できるということに満足しているのだ。

では、この辺で……。

## 水泳部に入って

B 18 栗原 稔

入学した時、どうしようかと迷いながらも水泳部に入ってしまった。そして、すでに三ヶ月たった。その間、二度の合宿、二度の強化練習を行ない、試合も何回あった。

水球の練習や、飲んで酔いだコンパ等、高校時代に経験していかかった事があり、かなり新鮮味があった。しかし、競泳に関しては、まったく高校の延長にすぎない。よくもまあ、あきずに泳げるものだと、我ながら感心している。

春先は、練習よりもプールの水の冷たさの方がつらかった。しかし、練習の後で風呂に入り、冷たいプールの水の話をしながら体を暖める時の、気持のよさは、神大水泳部以外では絶対に同じわえないなものだと思う。又、燃料の油がなくなつた事もあった。風呂をわかすかわりに、タオルを燃やして体を暖めた事もあった。しかしもう風呂ともおさらばである。待望の七月になった。水泳の本格的シーズンがやって来たのだ。もう水の冷たさはこたえない。かえって気持がよいくらいである。

併も競泳、水球の両方にハッスルしようと思っている。しかし残念にも僕の気持をさまたげるものがある。それはプールの水のきたなさである。水温が上がるにつれて、緑色に近づいて来た。プールの底がほとんど見えないう。競泳の時にはまだよいが、僕達一年生にとっては、水球の時に、水のきたなさがとくにこたえる。毎日、五回ぐらい水をのまされるのは必至である。同じのまされるならきれいな水をのみたいのが人情であろう。将来なんとかしたいものである。

僕は今、競泳よりも水球の方に興味がある。巻き足、けり足、カペボール、寝返り等、練習は競泳以上にづらいが、変化があり

巧妙なテクニクをマスターすれば、試合で相手を、かわいがる  
ことが出来るからである。

## ビールを飲んで

T 18 菱 田 徹

僕は、大学に入らたら、必ず運動部に入らうと思つていたが、  
その部が水泳部になつてしまつた。入つて驚いた事は、練習のし  
んどさと酒を飲む機会の多いことだつた。入部してしばらくたつ  
た四月末頃、四年生の人に睡眠につれていつてもらつたが、この  
時飲んだ一杯目のビールは非常にうまかつた。もともとビールは  
にがひので余り好きでなかつたが、この時だけは非常にうまかつ  
たので一気に飲みほした。練習の後でのが乾いていたから余計  
うまく感じたらしい。その上勘定は先整持ちだからよけい気持が  
いい。すんなりとビールが、のどを通る。

五月の大学祭の時、ビアガーデンでビールをただ飲みして、フ  
ラフラになつたが、この時悪友と一緒にだったので、ジョッキや  
グラスを拝借することを覚えた。これ以来やみつきになつた。僕  
は小さい時盗癖があつたらしく、泥棒の素質は十分で、酔うとそ  
んな気持はないのについ手がでてしまう。犯罪者一般が言うより  
に、あの時のスリルがたまらないのかもしれない。阪急ビルのピ

アガーデンでジョッキは取るし、喫茶店で灰皿を取るし、京都  
では変な本を取るし………警察のやつかいにならないうち  
に、改めるようにしようと思つています。

こんな風にビールを飲んでいい気持になる間はいいが、日本酒  
とビールをチャンボンして苦しみ悶えること程いやなものはない  
と思う。六月の合宿前のコンバの時は、実に苦しかつた。實際で  
ネオンサインを眺めながら、からっぽになつた胃袋から何とか少  
しづつ出すなんて事は、練習よりも苦しい。……いや、やつぱ  
り練習の方が苦しいかな？………。

しかし、この前の古林先生御退官記念の時のようなコンバは楽  
しいし、しかも先理方が沢山来られて色々話をされるので、自分  
の未来に対して自信がもてる。コンバというのは、酒を飲みなが  
ら、自分の将来がバツと開いたよう自信がもてるのだから、結  
構なものだと思われれます。



河  
量の年々し

## 山代合宿

栗原稔

四月二十九日、かなり朝早く大阪駅に集合。オンボロ列車で一路山代へ向う。運賃七〇〇円也。黒の学生服がひととき目立つ。ぶら下げた三升の米が、朝飯ぬきの体にくたえる。大聖寺でいなか電車に乗りかえ、山代に午後四時ごろ到着。ああ、しんどかった。

宿舎につき、さっそく、軽く一〇〇メートル流す。最大の関心事である食事は、まあまあであった。以後の食事に期待がもてる。夕食後、ミーティングを行ない、起床時間等、いろいろの事を決める。特に、フリー陣とバック陣は、クイック・ターンをやることに決定。全員のフアイトがひしひしと感じられる。オレもやったるで！

一日目にして早くも後悔の念いなくものあり。無事に神戸へ帰れますように！。早朝と夕食後の練習が加わり、練習量がふえるにつれて、食事が悪くなる。最初の食事がピークであった。特にタケノコのみの中にはまいった。期待はもうくも、くずれ去った。合宿途中から先登諸氏が来られた。わざわざ、ごくろうさん。しかし、Mさんなどは練習が終るたびに、婦人風呂をのぞいたり

して、結構楽しんでおられた。先登の指導のもとにポロの練習も始まった。時には反則をやってもよいとか、気の弱い僕に果してできるかどうか心配だ。ポロのしんどさがわかった。

待望の練習休みがやって来た。疲れをとるためにも、非文化的な生活からの解放のためにも、大いに結構なことである。しかし山代は温泉町といっても、温泉町らしきものがあまり見あたらない。結局、二年生を中心に約半数が同じ小屋にくりこむことになった。一年生歓迎コンバもささやかに行なわれた。その時初めてホルモン焼きという、あやしげなものを口にした。

五月五日、午前のレースを最後に、一週間にわたる合宿を終った。宿舎の前で写真をとり、全員無事に適当に帰った。

## 京阪神三大学戦

P 18 沢内孝夫

我ら水泳部員にとって、今年一番目の公式戦である京阪神三大学戦は、六月五日、府大プールにおいて、快晴のもとに開かれた。もともとこの試合は、同大・関大・関学の三大学対抗戦の付属物と、水連では思っているそうである。まあ、何んにしても、初めての公式戦には違いないのである。初めて顔を合わせた阪大。キブテン宮部さんを始めとして、みんなは、打倒阪大を目指した。

そして、あわよくば京大をも破って優勝と、思いながら府大の門をくぐった。

すべては予想通り進んだ。京大に勝つことは、今の段階では無理としても、阪大には勝ちたい。そう思っているうちに、試合はどんどん進んで行った。本当に予想通りであった。フリー陣の弱さは、バック・バック・ブレがカバーし、わがチームには、勝運がみなぎっていた。そして、いよいよ最後の八〇〇メートルである。この時まで、京大とは、差が大分離れていたが、阪大には、一点差で勝っていた。勝負は、これで決まる。長年、打倒阪大を目指してきた四年生、この試合で阪大を破り、全国国公立大会へ行く先きがけとしようと思っっている二年生・一年生の期待が、この八〇〇メートルにかかったのだ。こちらのメンバーは、木村・吉江・宮部・玉置で、阪大は、吉田・山口・井上・津田であった。スターターは、そんな事情も知らず、いつもの通り、銃をならした。レースは、両方緊張のうちに進んで行き、ついに、ラストの番になつた。この時まで、うちは、阪大に十秒ほど差をあげていた。うちのラストは期待の一年生玉置、向うは、その名を全国に響かしている津田さんである。玉置は追いつかれるであろうか。二人の差は縮まって行くばかりである。そして最後の五〇mである。玉置は二五mほどの所で追いつかれた。しかし、すばらしいスタミナとファイトの持ち主の玉置は、抜かれずに、ほとんど同時にゴールした。勝った。ついに打倒！阪大を実現した、と神大

の者は勿論、京大・阪大の者もそう思った。しかし勝運は、神大から離れていった。審判員は4:1という判定で、阪大の勝を宣したのであった。

ああ、無念！

自由形 一〇〇米 宮部 一分〇八秒五(二位)

久保 一分一二秒一(六位)

四〇〇米 玉置 五分三三秒八(二位)

熊岡 五分五一秒五(六位)

八〇〇米 玉置 一分四〇秒六(二位)

熊岡 一分二九秒一(六位)

背 泳 二〇〇米 木村 二分五二秒五(二位)

福田 三分〇〇秒三(四位)

平 泳 二〇〇米 鈴木 二分五四秒九(一位) 大会新

栗原 三分〇九秒三(五位)

阿部 三分〇九秒八(六位)

バタフライ 二〇〇米 阿部 二分五九秒〇(二位)

沢内 三分二六秒三(四位)

個人メドレー 四〇〇米 鈴木 六分一五秒〇(二位) 大会新

四〇〇米メドレー(木村・鈴木・阿部・宮部)

四分五五秒二(二位)

八〇〇米メドレー(木村 吉江 宮部 玉置)

一分二七秒四(三位)

一位 京大 70点 二位 阪大 61点 三位 神大 59点

# 関西国公立戦

七月二、三日 於 大阪府大プール(五〇米)

T 18 菊 田 修 三

僕は、シーズンの途中から入ったので、京阪神には出場していません。だからこの関西国公立は、僕にとっては始めての公式戦です。初めて神大のプールへ行つた日、たいへんいい記録を出したので、みんなから期待されていました。そしてこの試合では調子はまあ普通で、記録もまあまあのが出ました。先輩達は、決勝に残れるだろうと言われましたが、やはり無理でした。しかし、実に驚ろいたなあ。関西国公立のレベルがこんなに低いとは。実際、僕は決勝なんか、今の僕の実力では残れるとは、夢にも思つてなかつたのに、あとちょっと頑張ると残れるようになるとは。これならば、遅れて水泳部に入っても十分みんなにおいつけるし、十分やっていると書いています。しかし、中学校から水泳をやっているのです、これから伸びるかどうか、非常に疑問なのです。試合の方は、わが神大が、代表となる二校のうちにはいるつもりが、府大の異常とも言えるほどの活躍によって、それも拒まれました。しかも驚ろいた事には、八〇〇mリレーで、府大が京大を破り総合優勝をした事です。やはり五〇mプールを持って

いる学校は強いなあと思ひました。

自由形	八〇〇米	玉置	一分四六秒四(五位)
平泳	一〇〇米	鈴木	一分一七秒七(一位)
	二〇〇米	鈴木	二分五三秒五(一位)
背泳	一〇〇米	木村	一分一七秒九(三位)
	二〇〇米	木村	二分四九秒九(三位)
バタフライ	一〇〇米	阿部	一分一二秒六(六位)
	二〇〇米	阿部	二分四〇秒一(二位)
四〇〇米個人メドレー	鈴木	六分一七秒九(六位)	
四〇〇米メドレー	(木村・鈴木・阿部・吉江)	四分五五秒九(四位)	
八〇〇米リレー	(玉置・木村・宮部・吉江)	一分二五秒九(三位)	
一位	大阪府立大	七三点	
二位	京大	六九点	
三位	神戸大	三八点	
四位	広島大	三三点	
五位	大阪大	二九点	

昭和4年 第47回

対市大戦

E 18 玉置 明

今まで我ら一年生にとって、一度も見た事がない先輩達が多数集まるという市大戦は、七月十日、神大プールで開かれた。勝敗はやる前から決っていたので、キャプテンは、自己のベストを出すようにと言われた。だからそのつもりでハッスルしたのであるが、タイムが思うように出なかつたのは、実に残念。それにしても、市大はバックとバッタが弱かつた。神戸は全種目の一位をかっさらつたわけであるが、市大には、今年五〇メートルが完成したので、今までのような試合はなくなり、おもしろい試合を来年からやれるであろう。ひよっとすると何年か後には、負けるかも知れないという心配もたいわけではないが、まあ何にしろ、一番仲の良い市大が強くなる事を期待するのみ。勿論、それ以上にうちが強くなるのは、言葉を出すまでもない事であろう。

全種目一位独占

四〇〇米 混継泳	一位	四分五二秒九 (大会新)
四〇〇米 自由形	一位	五分二九秒五
熊岡	三位	五分四八秒〇

四〇〇米 自由形	吉江	五位	六分〇〇秒〇
二〇〇米 平泳	鈴木	一位	二分五一秒〇 (大会新)
	栗原	三位	三分〇二秒九
	菊田	四位	三分〇八秒〇
二〇〇米 バタフライ	阿部	一位	二分四八秒〇 (大会新)
	由佐	三位	三分一七秒五
	菱田	五位	四分一〇秒二
二〇〇米 背泳	木村	一位	二分四九秒〇 (大会新)
	福田	二位	三分〇〇秒八
	沢内	三位	三分〇四秒一
一〇〇米 自由形	宮部	一位	一分〇七秒一
	久保	二位	一分〇九秒八
	以西	五位	一分一五秒〇
八〇〇米 自由形	玉置	一位	一分四〇秒四
	熊岡	二位	一分二七秒〇
	吉江	四位	一分二四一秒三
二〇〇米 個人メドレー	鈴木	二位	二分四五秒八 (大会新)
	沢内	二位	二分五五秒二
	阿部	五位	三分〇五秒〇
八〇〇米 継ぎ泳		二位	一分一四秒六 (大会新)
水球	神戸	七一〇	市大

# インターカレッジ

T 18 以西 吉 一

三商大も延びて、九月まで大きい試合がないという気楽さから七月十九日よりのインターカレッジのための合宿も、のんびりとやった。そのため、三十・三十一日に行われたインターカレッジは、心のゆとりを持って臨むことが出来た。この試合は、大阪体育大の五〇mプールで行なわれたのであった。昨年以來、大試合には万年三位という悪癖を打破するため、一回頭張ったのであったが、強力な泳ぎ手不足のため、決勝に残っても入賞する者の数が少なく、得点にはならなかった。そして、強烈な一位争いに府大が京大を敗りそのバカ力を示したのであった。神大は、恥かしいのであるが、阪大にも負けて四位という、実にさけない結果となった。これもフリーのエース不足が響いている事は言うまでもない。まあ、今年のインターカレッジは、のんびりとやるつもりであつたので、口惜しくもないと言いたいだが、阪大には勝ちたかつたのは、四年生を始めみんなの思うところである。最後に、この試合にカワイコちゃん(?)を連れて来た者があつて、デレデレするあまり、危うく出番に遅れそうになつたりして、楽しかつた試合の一つであつた事を書かねばならぬであろう。

今年は何んか具合であつたが、来年は、意気どみだけでなく、勝算あつて一部へ昇格すると、現キャプテン始め新人すべて思うところ。

一位	府大	69 点
二位	京大	54 点
三位	阪大	42 点
四位	神大	39 点

四〇〇mメドレーリレー(木村・鈴木・阿部・宮部)

三位 四分五二秒六

八〇〇m 自由形 玉置 五位 二分二四秒九

一〇〇〇m 平 鈴木 一位 一分一五秒九

一〇〇〇m バタフライ 阿部 五位 一分一二秒七

一〇〇〇m 背 木村 二位 一分一五秒三

四〇〇m個人メドレー 鈴木 六位 六分一五秒〇

二〇〇〇m 平 鈴木 一位 二分五〇秒四

二〇〇〇m バタフライ 阿部 二位 二分四二秒一

二〇〇〇m 背 木村 二位 二分四四秒二

八〇〇mリレー(玉置・木村・沢内・宮部)

六位

# ポロリーグ戦

八月五日  
於 大府大プール

今年、京大、大阪市立大が棄権したので、初出場の大府大を加えた三校で行なわれた。がやはり立命館は強く、全国大会出場は果せなかった。

神大	1	1	7	立命館
○神大	4	1	1	大府大
○立命館				大府大

# 兵庫インカレ

八月二五日  
於 関学大プール

関学大、甲南大、神大、神商大、神船大の五校によって行なわれた。が一部校、関学、甲南との差は大きく、歯が立たなかった。主を記録は左の通り。

一〇〇米 平泳	鈴木	一分一六秒四 (二位)
二〇〇米 平泳	鈴木	二分五一秒〇 (三位)
八〇〇米 自由形	玉置	一分〇一秒七 (五位)
一〇〇〇米 背泳	木村	一分一六秒九 (四位)
二〇〇〇米 背泳	木村	二分四二秒一 (四位)

二〇〇米 背泳	福田	二分五三秒一 (六位)
一位 関学大	一一九点	二位 甲南大 九八点
三位 神大	三九点	四位 神船大 一七点
五位 神商大	一七点	

# 近畿地区国立大学体育大会

P 18 福田 大 弑

九月三日、快晴。待ちに待った近体戦である。我が校水泳部のこれまでの成績は、京阪神三大学戦・関西国公立・関西インカレ・兵庫インカレと公式戦は全く奮わずすべて3位(すばらしい!)である。そのためこの試合は優勝をめざして強化練習までした晴れの成果のみせ場である。ここ秋葉山昇民プールは新設されたところで大変形プール・噴水・二五m・五〇mプール・高飛び込み用プールと万全至れりつくせりである。水は真青、我々の優勝するのを祝福してくれているかのようである。

競技は決勝種目に入り、しょっぱなから個人メドレー(鈴木)優勝(当人はこの種目の優勝は初めてで、これを最後に色気を出すのはやめるとのこと)。八〇〇mフリー(玉置)二位。四〇〇m混泳二位。二〇〇〇m平泳(鈴木)優勝と好調なすべり出して終始トップをとり、大量(?)七十二点を獲得し、二位以下に大

量をつけて楽勝した。しかし内容が問題で、以前から指摘されて  
 いるように全く、フリー陣（玉置を除く）は弱体ぶりである。ま  
 た我校の宿敵京大が、戦力低下しておりそれに助けられた感  
 がある。それにリレー種目はすべて2位で一つも優勝できず、二  
 ○m継泳では関西三部校の京都教育大学に負けて、記録面  
 も他校に比べて著しく伸びが少ない。だからこの優勝に酔いしれ  
 てはならない。しかし我校の戦力は一・二年、特に一年生が主体  
 とをっているので今後の飛躍が期待される。来年は一部入りを果  
 たそう。

（於 和歌山県菅、1ル11五〇米）

自由形	一〇〇米	宮部	一分〇八秒五（五位）
	二〇〇米	沢内	二分三六秒〇（五位）
	四〇〇米	玉置	五分三一秒二（二位）
	八〇〇米	玉置	一分二〇秒〇（二位）
平泳	一〇〇米	鈴木	一分一七秒五（一位）
	二〇〇米	鈴木	二分五二秒〇（一位）
		栗原	三分〇四秒五（六位）
背泳	一〇〇米	木村	一分一五秒一（二位）
		福田	一分二〇秒一（五位）
	二〇〇米	木村	二分四二秒三（一位）
		福田	二分五二秒五（五位）

バタフライ 一〇〇米 熊岡 一分一八秒〇（五位）

二〇〇米 由佐 三分四七秒三（六位）

四〇〇米個人メドレー 鈴木 五分五八秒五（一位）

四〇〇米メドレー（木村・鈴木・由佐・宮部）

四分五七秒〇（二位）

二〇〇米リレー（木村・鈴木・久保・宮部）

二分〇一秒一（二位）

八〇〇米リレー（木村・沢内・玉置・宮部）

一分二〇秒五（二位）

優勝 神戸大 七三点

二位 京都大 六五點

三位 大阪大

四位位 和歌山大

### 旧三商大水上競技大会

T 18 陳 東

時 九月十一日

於 大阪市立大学プール

一、四〇〇m混泳 押大一 四分五五秒〇 大会新

二位 大阪市大 三位 一橋大

二、四〇〇mフリー	玉置四位	五分二四秒八
三、二〇〇mプレント	吉江六位	五分五〇秒七
四、二〇〇m個人メドレー	鈴木一位	菊田四位
五、二〇〇mバック	鈴木一位	二分四二秒一
六、一〇〇mフリー	熊岡五位	二分五五秒四
七、八〇〇mフリー	木村一位	二分四九秒五
八、二〇〇mバタフライ	福田二位	二分五二秒三
九、八〇〇mリレー	木村三位	一分〇六秒九
	宮部四位	一分〇七秒六
	玉置二位	一分十九秒四
	沢内四位	十二分〇二秒七
	阿部一位	
	由佐二位	
	神大二位	吉江・玉置・木村・沢内
一、一〇〇mリレー	一位	大阪市大 三位 一橋大
二、二〇〇mリレー	一位	神大 七二点
三、三〇〇mリレー	一位	大阪市大 二位 大阪市大 六三点
四、四〇〇mリレー	一位	一橋大 三九点
五、五〇〇mリレー	一位	神大 一橋大 三九点
六、六〇〇mリレー	一位	神大 一橋大 三九点
七、七〇〇mリレー	一位	神大 一橋大 三九点
八、八〇〇mリレー	一位	神大 一橋大 三九点
九、九〇〇mリレー	一位	神大 一橋大 三九点
一〇、一〇〇〇mリレー	一位	神大 一橋大 三九点
水球の部	神大	1 1 5 一橋大〇
	〇一橋大	1 1 5 一橋大〇
	〇神大	7 1 1 大阪市大

今年の三商大戦は七月に東京で行われるはずであったが、朋校大阪市大に待望のブルが完成することになり、そのブル開きの意味も兼ねて、九月十一日、大阪市大にて行われた。三商大より全国大会に重点をおこうという神大水泳部ではあるが、やはり伝統を誇るこの試合には何かしら他の試合とは異なる雰囲気があるものである。近畿地区国立大会に優勝して意気あがる我らは、今シーズンの最後を飾らんと最高の興奮をもって試合に臨んだ。新設なつた五〇〇mブルが誇らしげに我らを迎えた。すばらしいブルだ！思わず驚嘆し、そしてジェラシーを憶えた。これこそブルというものだ。神大のブルはブルにあらずとさえ思われる。しかし驚くべきことは他にあった。あっぱれな大阪市大の善戦である。まだブルが出来て幾日も経っていないのに、最後まで神大をおびやかした奮闘に惜しみなき賞讃を送る。

特殊目に強くフリーに弱い今年の我部であったが、この試合でもそれを痛感した。浪継、プレスト、個継、バック、パッタとすべて一位を確保したのに対し、フリー種目はみな大阪市大に制されてしまった。来シーズン全国大会出場をねらう神大水泳部にとって、フリー陣の強化は大きな課題である。沢内・以西・井上大、奮起せよ！ポロでは一橋に名をなさしめた。試合近くになつて一年生の沢内・木村・玉置のフォワードトリオが急速に力をつけてきたので、かなりいけそな気がしていたのだが、あとひとつ及ばなかったようである。何事につけ楽観は好ましくない。

現役部員ベストタイム表  
(昭和41年度)

	50m	100m	200m	400m	800m	個人ベスト 200m	個人ベスト 400m
フリ-4年	28-5	1-06-1	2-33-2	5-45-0			
2年	29-0	1-07-0			12-09-0		
1年	30-1	1-07-6	2-32-4				
	32-1	1-12-0	2-49-9	6-12-0	13-21-0		
	29-6	1-07-8	2-29-5	5-22-0	11-01-7		
	30-9	1-10-6	2-35-2	5-22-2	12-01-0	2-51-0	6-26-2
	36-8	1-24-5	3-09-2	6-44-1	13-45-0		
	33-4	1-14-5	2-51-1	6-03-1	13-03-1		
	30-7	1-09-5	2-43-0	6-02-0	12-58-0		
フレスト2年	34-5	1-15-9	2-50-3	6-08-0		2-41-5	5-51-6
1年	38-9	1-25-0	3-13-0	7-03-0	14-17-5		
	38-5	1-25-2	3-09-0	6-56-3	14-33-5		
	38-1	1-23-2	3-00-8	6-40-0	14-10-0		
	36-5	1-21-1	3-03-1	6-37-0	14-10-0		
ハクソライ4年	31-9	1-10-2	2-38-2				
2年	32-3	1-13-0	2-55-4				
	32-5	1-18-7	3-08-6	7-25-6		2-55-4	
	36-4	1-27-4	3-48-0				
	34-8	1-15-0	2-44-2	5-50-3	12-10-0		
ハクソク1年	37-0	1-20-0	2-52-6	5-55-6			

15  
18  
165

## 凌 泳 会 会 計 報 告

昭和40年度収支決算	昭和41年度収支予算案
<p>収 入</p> <p>前期繰越      1,870円</p> <p>凌泳会費    <u>129,500</u>(90人)</p> <p>寄付金      47,500(41人)</p> <p>会合費      18,000</p> <hr style="width: 50%; margin-left: auto; margin-right: auto;"/> <p style="text-align: right;">計      196,870円</p>	<p>収 入</p> <p>前年度繰越      18,000円</p> <p>凌泳会費      180,000</p> <p>寄付金      60,000</p> <p>会合費      30,000</p> <hr style="width: 50%; margin-left: auto; margin-right: auto;"/> <p style="text-align: right;">計      268,000円</p>
<p>支 出</p> <p>凌泳発行費      20,000円</p> <p>水泳部援助      120,160</p> <p>会合費      20,000</p> <p>交通費      5,900</p> <p>通信費      11,210</p> <p>雑費      1,600</p> <p>次期繰越      18,000</p> <hr style="width: 50%; margin-left: auto; margin-right: auto;"/> <p style="text-align: right;">計      196,870円</p>	<p>支 出</p> <p>凌泳発行費      25,000円</p> <p>水泳部援助      180,000</p> <p>会合費      30,000</p> <p>交通費      10,000</p> <p>通信費      15,000</p> <p>雑費      4,000</p> <p>次期繰越      20,000</p> <hr style="width: 50%; margin-left: auto; margin-right: auto;"/> <p style="text-align: right;">計      268,000円</p>

# 水 泳 部 会 計 報 告

昭和40年度収支決算	昭和41年度収支予算案																																																												
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: left;">収入</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">前年度繰越</td> <td style="text-align: right;">8992円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">部 費</td> <td style="text-align: right;">25,650</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合 宿 費</td> <td style="text-align: right;">185,750</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">凌泳会援助</td> <td style="text-align: right;">120,160</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">育友会援助</td> <td style="text-align: right;">41,300</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">会 合 費</td> <td style="text-align: right;">17,800</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">雑 収 入</td> <td style="text-align: right;">17,355</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right;">417,007円</td> </tr> </table>	収入		前年度繰越	8992円	部 費	25,650	合 宿 費	185,750	凌泳会援助	120,160	育友会援助	41,300	会 合 費	17,800	雑 収 入	17,355	計	417,007円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: left;">収入</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">前年度繰越</td> <td style="text-align: right;">15,562円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">部 費</td> <td style="text-align: right;">45,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合 宿 費</td> <td style="text-align: right;">350,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">凌泳会援助</td> <td style="text-align: right;">164,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">育友会援助</td> <td style="text-align: right;">40,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">会 合 費</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">雑 収 入</td> <td style="text-align: right;">20,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right;">684,562円</td> </tr> </table>	収入		前年度繰越	15,562円	部 費	45,000	合 宿 費	350,000	凌泳会援助	164,000	育友会援助	40,000	会 合 費	50,000	雑 収 入	20,000	計	684,562円																								
収入																																																													
前年度繰越	8992円																																																												
部 費	25,650																																																												
合 宿 費	185,750																																																												
凌泳会援助	120,160																																																												
育友会援助	41,300																																																												
会 合 費	17,800																																																												
雑 収 入	17,355																																																												
計	417,007円																																																												
収入																																																													
前年度繰越	15,562円																																																												
部 費	45,000																																																												
合 宿 費	350,000																																																												
凌泳会援助	164,000																																																												
育友会援助	40,000																																																												
会 合 費	50,000																																																												
雑 収 入	20,000																																																												
計	684,562円																																																												
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: left;">支出</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">水連加盟費</td> <td style="text-align: right;">6,000円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">試 合 費</td> <td style="text-align: right;">21,370</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合 宿 費</td> <td style="text-align: right;">245,804円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">会 合 費</td> <td style="text-align: right;">34,720</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">設 備 費</td> <td style="text-align: right;">20,460</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">交 通 費</td> <td style="text-align: right;">13,785</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">通 信 費</td> <td style="text-align: right;">6,690</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">燃 料 費</td> <td style="text-align: right;">4,350</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医 薬 品 費</td> <td style="text-align: right;">1,870</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">消 耗 品 費</td> <td style="text-align: right;">4,256</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">記 念 品 費</td> <td style="text-align: right;">11,700</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">雑 費</td> <td style="text-align: right;">29,840</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">次 期 繰 越</td> <td style="text-align: right;">15,562</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right;">417,007円</td> </tr> </table>	支出		水連加盟費	6,000円	試 合 費	21,370	合 宿 費	245,804円	会 合 費	34,720	設 備 費	20,460	交 通 費	13,785	通 信 費	6,690	燃 料 費	4,350	医 薬 品 費	1,870	消 耗 品 費	4,256	記 念 品 費	11,700	雑 費	29,840	次 期 繰 越	15,562	計	417,007円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: left;">支出</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">水連加盟費</td> <td style="text-align: right;">7,000円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">試 合 費</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">合 宿 費</td> <td style="text-align: right;">470,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">会 合 費</td> <td style="text-align: right;">60,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">設 備 費</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">交 通 費</td> <td style="text-align: right;">20,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">通 信 費</td> <td style="text-align: right;">10,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">燃 料 費</td> <td style="text-align: right;">5,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医 薬 品 費</td> <td style="text-align: right;">3,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">消 耗 品 費</td> <td style="text-align: right;">5,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">記 念 品 費</td> <td style="text-align: right;">7,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">雑 費</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">予 備 費</td> <td style="text-align: right;">7,562</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right;">684,562円</td> </tr> </table>	支出		水連加盟費	7,000円	試 合 費	30,000	合 宿 費	470,000	会 合 費	60,000	設 備 費	30,000	交 通 費	20,000	通 信 費	10,000	燃 料 費	5,000	医 薬 品 費	3,000	消 耗 品 費	5,000	記 念 品 費	7,000	雑 費	30,000	予 備 費	7,562	計	684,562円
支出																																																													
水連加盟費	6,000円																																																												
試 合 費	21,370																																																												
合 宿 費	245,804円																																																												
会 合 費	34,720																																																												
設 備 費	20,460																																																												
交 通 費	13,785																																																												
通 信 費	6,690																																																												
燃 料 費	4,350																																																												
医 薬 品 費	1,870																																																												
消 耗 品 費	4,256																																																												
記 念 品 費	11,700																																																												
雑 費	29,840																																																												
次 期 繰 越	15,562																																																												
計	417,007円																																																												
支出																																																													
水連加盟費	7,000円																																																												
試 合 費	30,000																																																												
合 宿 費	470,000																																																												
会 合 費	60,000																																																												
設 備 費	30,000																																																												
交 通 費	20,000																																																												
通 信 費	10,000																																																												
燃 料 費	5,000																																																												
医 薬 品 費	3,000																																																												
消 耗 品 費	5,000																																																												
記 念 品 費	7,000																																																												
雑 費	30,000																																																												
予 備 費	7,562																																																												
計	684,562円																																																												

「凌泳会」役員紹介

本会の本部及び地方支部の役員が次の通り決定しておりますので紹介します。

姫路	大坂	京都	関西支部	九州支部	四国支部	中国支部	名古屋支部	関東支部	会計幹事	幹事	幹事	副会長	会長
山口	武政	西岡	柳本	印堂	中村	古川	鈴木	永野	小山	石井	岡本	小林	古林
仁郎	英幸	良宏	正雄	勝美	市治	富美男	啓介	一彦	賢之助	常雄	義章	忠男	賢之助
	鈴木	佐藤						浜川	森川	宇賀	岡田		
	木正	藤一						広海	美夫	史郎	昌三		
	彌夫												

Vertical text on the left margin, possibly a page number or title.

Vertical text in the left margin, possibly a page number or title.

Main body of text, appearing as faint horizontal lines across the page.

Lower section of text, appearing as faint horizontal lines.

凌 泳 会 员 名 簿